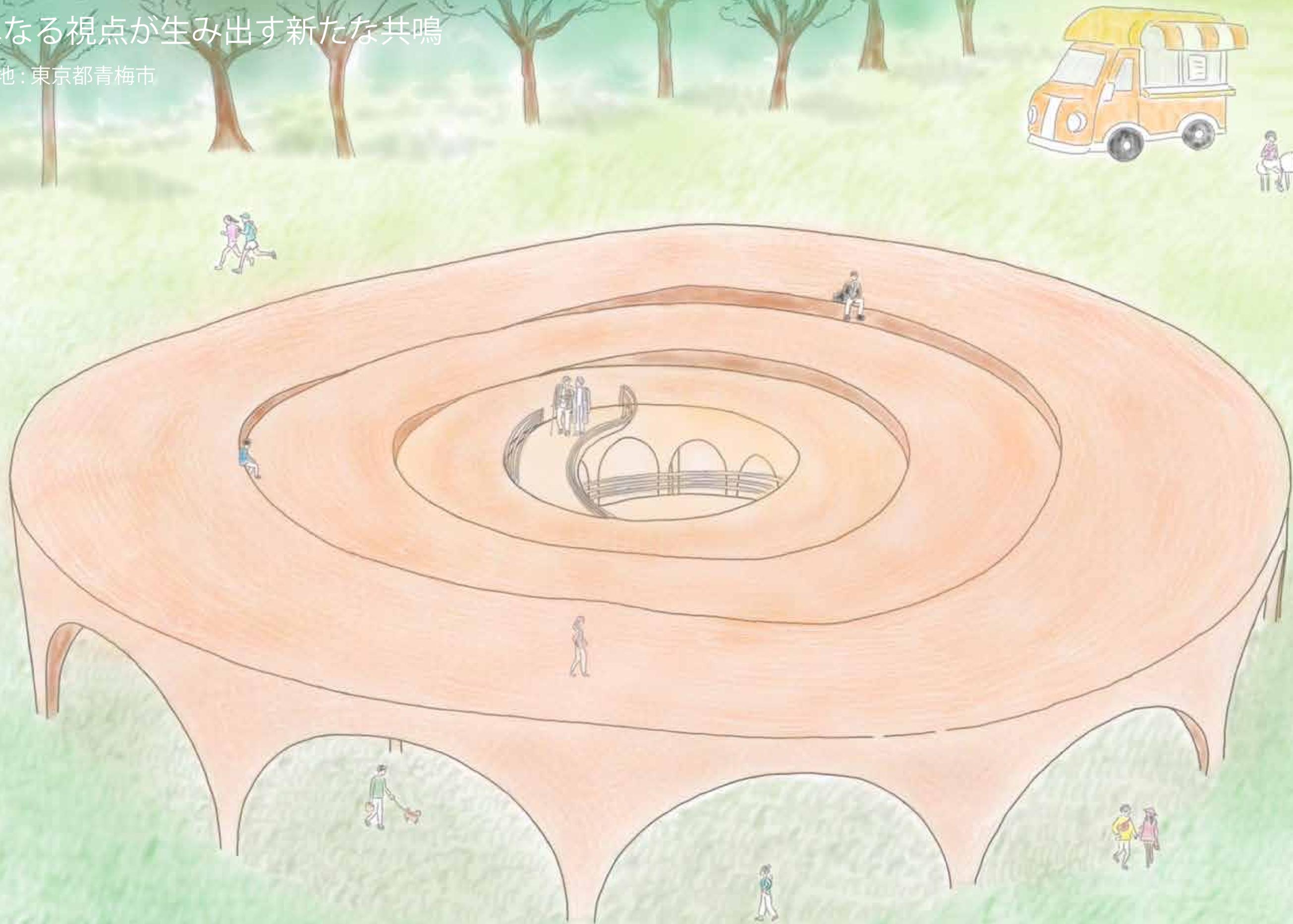


# 円環の対話

異なる視点が生み出す新たな共鳴

敷地：東京都青梅市



# 01. 「+ × ÷」へのアプローチ “交差する価値観”

日常にある公園という存在。

それは公衆のための憩いの場として目的によらず公開されている空間である。

目的がない人や通過するだけの人もいるかもしれない。

人々が1つの空間を共有し合うことで新たな価値観を生み出すこと、

趣味や生活から世代による違いまで垣根を越えた交流を促すこと。

人の結びつきにおける四則演算を、人の手により作り出す建築を私たちは提案する。

## 02. 敷地設定

### “ベッドタウン区域の核家族化”

世代別の交流を生む施設を

つくるに当たり、各世代

が生活しており学生、

若者からその親、またその親世代

まで幅広く住んでいる

ベッドタウンを

選んだ。青梅市は西東京

に位置し三方山をはじめ

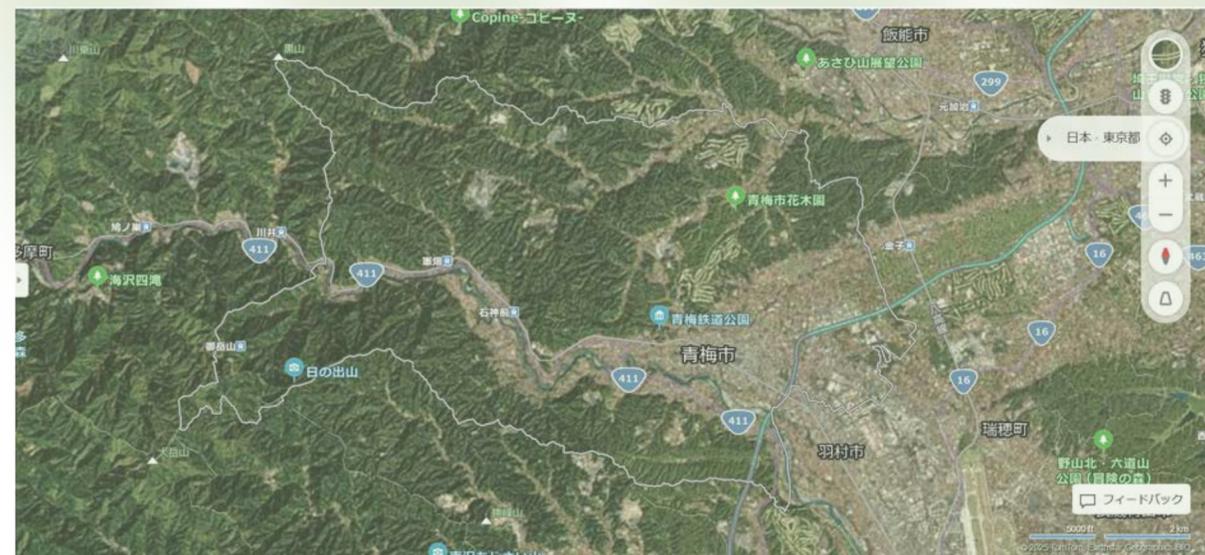
とした山々に面している

ため生活と自然が交わり

やすい。休日には地元内

での近所づきあいや、

習い事の往復路、知り合いとの談話をする事が出来る場所の提供に繋がる。



## 03. 価値観の相互作用

### 3-1. 活動の循環を示す円

人々の知識を増やす、遮断する、混ぜ合わせる、入れた知識を自分なりに解釈して、また人に分配する。サークル上の空間がその操作を循環させる。



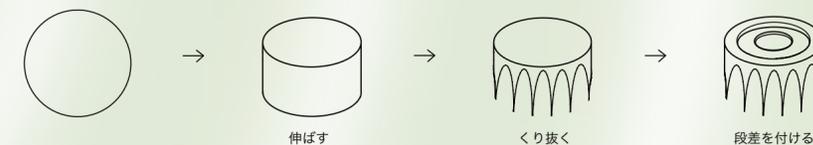
### 3-2. 波紋が広がる屋上

「波紋が広がる」「波紋を呼ぶ」「波紋を投じる」「波紋」は何もない空間に生まれ、静かに、しかし鮮明に受け手に影響を与えていく。

人々が感じたことをまた新たなアクションに繋げることで波紋の連鎖が生まれ共振が続いていく。

### 3-3. 視線が交差する境界線

建物には部屋という区切りが存在しない。部屋という区切りがあることで、同世代が集まる空間が無意識的に生まれてしまう。この空間では、いる人、ある物、行われていることを仕切らず受動的に感じることができる。



## 04. 古代ローマに遡って

古代ローマ時代、それは建築技術と美の融合が簡明に表されている時代だ。

アーチ構造といえば、コロッセオやティトゥスの凱旋門は古代ローマ建築で馴染み深い。加えて上部からの荷重に耐え、少ない資材で実現することが可能だ。

古代の叡智に魅せられるその形状を、屋上のコミュニティスペースを作るにあたり利用した。

